

# 令和5年度 園内研修報告書

## テーマ

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫  
～身近な自然の豊かさを感じながら、仲間と共に考えたり、工夫したりする遊びを通して～



## 園内研修メンバー

園長	熊田 紫香		
主幹保育教諭	与儀 和歌子	仲田 朋弘	
保育教諭	中本 絹枝	新垣 紗希	仲村 隼
	当真 真依子	上地 奈菜香	宮平 希
	高橋 美希	知念 洋子	

南城市公私連携幼保連携型認定こども園 知念こども園

## 目 次

I	テーマ設定理由	1
II	目標	1
III	方法	1
IV	内容	1
V	園内研修年間計画	2
VII	実践事例	
	事例（1）「水って不思議だね」	3－4
	事例（2）「ひなを救出大作戦！！」	5－7
	事例（3）「ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、 保育の質の向上」	8
VIII	まとめ	9

## 園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫

～身近な自然の豊かさを感じながら、仲間と共に考えたり、工夫したりする遊びを通して～

### I テーマ設定の理由

近年 少子化、核家族化が進行し、子ども同士が集団で熱中し、時には葛藤しながら互いに活動し合う機会が減少するなど様々な体験が失われている。また、情報化の進展によって、子どもの生活空間の中に自然や広場などと遊び場が少なくなる一方で、テレビゲーム、インターネット等の室内遊びが増えるなど偏った体験が余儀なくされており、子ども達を取り巻く環境も大きく変化している。そういった激しい時代の変化の中、自分で考えて判断する、進んで行動する、意欲を持って活動するなどの主体的に遊びこむ力を育むことが求められる。

本園は3歳児から5歳児までの三クラスの65名が在籍している。自分の感情を素直に表現でき、自分の意見や考えをしっかりと伝え、伸び伸び体を動かして遊ぶのが大好きな子ども達である。しかし、身近な豊かな自然環境で触れ楽しんだり、遊びこむ力、探究心が弱いと感じる。特に遊びの継続、発展しないのが課題である。

そこで、身近な自然の豊かさを感じさせながら、仲間と共に考えたり、工夫したりする遊びを通して、園児が遊びこめるのではないかと考え本テーマに設定した。そのための環境構成、援助の工夫を探っていきたい。

### II 目標

身近な自然環境に触れたり、仲間と共に考えたり、工夫したりする体験を通して、幼児が遊びこめるような環境構成や援助の工夫を探る。

### III 方法

- 1 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、理論研究を行う
- 2 ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上
- 3 園児が遊びこむための環境構成、援助の工夫を図る

### IV 内容

- 1 遊びこむとは
  - ・没入している状態、集中している状態である
  - ・こども達ならではの発想によって、遊びが展開、継続している過程の状況
  - ・遊びの素材を使いこなし、我が物としていく状況

#### ↓ 遊びこむ経験

##### ☆子どもが主体的に遊びに入り込むような経験

- ・自由に好きな遊びをする
- ・好きなことや得意なことを活かして遊ぶ
- ・遊びに自分なりの工夫を加える

##### ※ベネッセ教育研究所より

- ・挑戦的な活動に取り組む
- ・先生に頼らずに制作する
- ・見通しを持って、遊びをやり遂げる

##### ☆遊びこむために大切にしていること

- ・子どもの思いを理解しようと努める
- ・遊びこめる場、時間、教材を考え、環境作りを心がける
- ・子ども達の思いや活動をつなげていく
- ・子どもの言葉や自由な発想、考えや発見、気づきを丁寧に受け止めていく

2 ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上

- ① 保育者が保育の中で捉えた子どもの姿を、ドキュメンテーションを活用することで園全体の共有につながる
- ② 子どもたちの姿が見えるようになることで、その場になかった他の職員、保護者と一緒に語り合う事のきっかけにつながる。
- ③ 職員、保護者との対話は、保育者の「子ども理解」を一人で向き合うよりより深いものにすることができる。それが保育の展開の新しいアイデアや考えを深めることにつながる
- ④ 皆と深めた子ども理解は、次の保育の場面で保育者がより豊かに子どもの姿を読み取ることに繋がる。
- ⑤ その読み取りが、ドキュメンテーションで「見える化」され、再度職員や保護者への共有につながる。
- ⑥ さらに「子ども理解」が園全体として深まる
- ⑦ 保育者を支え、園の皆で保育を育むことに繋がる。

3 園内公開保育〈全職員で子どもの姿から考える〉

- ・各クラスの保育を職員同士で見せ合う
- ・様々な視点から子どもの姿をとらえ、いろいろな事に気づき、考え、環境構成や援助の仕方について考える

・園内公開保育流れ（全クラスで公開保育を行う）  
 9：30～ 園内公開保育  
           クラスで保育を見る順番を決め交代で保育を見る  
 11：00 園内公開保育終了  
 14：00 ・公開したクラス担任による振り返り、自評  
           ・観察した保育者からの感想、質問  
           ・公開クラス担任の振り返りと質問への回答

V 園内研修年間計画

月 日	研修内容
4月	・園内研修 (保育環境について考える)
5月	・保育支援訪問 幼児教育アドバイザー 大城 美恵子先生 幼小連携アドバイザー 伊集 恒子先生 他 ・5園研修会（南城市主催） 講師：名渡山 よし乃氏 講話「遊びこむための環境構成の工夫と援助」
6月	・事例検討会①
10月	・園内公開保育（職員で各クラスの保育を見て語り合い考える） 9/26（年少：きりん組） 9/28（年中：ぞう組） 10/2（年長：らいおん組） ・事例検討会② ・公開保育（宮古島教育委員会） ・園内研修 講師 宮城 利佳子氏
12月	・成果と課題について

## VI 実践事例1「水って不思議だね」（5歳児）

6月上旬

<園児の姿>

・砂場で穴掘りしたり、お山作り、型抜き遊びをしたりして楽しむ姿がある。桶やバケツ等を用意し砂場の環境を変化させることで、桶や水等を使い遊びだす姿が見られてきた。

<保育教諭の願い>

・砂の感触を感じながら、水の流れを楽しんだり、いろんなアイデアをだしあいながら遊びの展開を広げてほしい。

<環境構成>

・桶や砂場セットを十分用意して、試行錯誤しながら、遊びが発展していけるようにする。

<保育教諭の援助>

・教諭も子ども達の様子をみながら、一緒に楽しみ、子ども達

のアイデアが膨らむような、展開が広がるようなきっかけを意識していく。

・保育の振り返りの時間等で楽しみを共有しながら、次への期待感、遊びの発展へのきっかけにつなげていく。



- A「水が流れるの楽しいな」  
 B「砂もながれていくな」  
 A「一緒に水ながしてみる？」  
 B「せーの！いけ！！」



- A「スコップ流れるかな？」  
 A「あれ！流れない」  
 A「下の穴に水も溜まらない」  
 A「どうしてかな？」

水の流れを楽しみ、友達と共感しながら、スコップを流してみたりして遊びの展開を考えて広げている。水が貯まらない不思議さも感じている  
 【思考力の芽生え】  
 【言葉による伝え合い】



- C「おまえ、水が少ないからだろ」  
 A「え！水いっぱい流したら、下の穴に水たまるのか？」  
 C「たまるよ。」  
 A「ジャー！溜まらないけど！」



- C「ホースみたいに水がでる口が小さくなったら、水が速くなって、水が溜まるかも」  
 E「ジョウゴが動くから砂をのせて動かないようにしましょう」

「なぜ？」「どうして？」と友達と一緒に考え合い、何度も試行錯誤しながら遊びの展開を広げている。友達と共通の目的に向かって楽しんでいる【協同性】  
 【思考力の芽生え】  
 【言葉による伝え合い】



次の日も水が溜まるにはと試行錯誤しながら楽しむ姿が！「斜めにして水の勢いを強くして、水の流  
れが速くなったら、水が溜まるかも」とC君がひらめきました。「先生、テーブル斜めにしてやってみ  
たい」と遊びの展開が変化してきました。



F「あれ！樋が滑って流れて  
いくけど！」  
G「テープで留めたら？」  
C「いいね。水に濡れても大  
丈夫なガムテープにしよう」



C「水の流が速くなってる」  
G「あれ？でも水が貯まらな  
けど！！」  
F「砂が水を吸っているのか  
な？」

他の友達にも、砂遊び  
への興味、関心が広が  
り、同じ目的に向かっ  
て、自分の知っている  
考えを言葉で伝えなが  
ら、試行錯誤して楽し  
んでいる【思考力の  
芽生え】【言葉による  
伝え合い】【協同性】



F「穴を深く掘って、砂がなく  
なれば水が貯まるかも  
G「穴掘りがんばろう」  
F「下が硬くなってもう掘れ  
ない」「水を流してみよう  
「あれ！水が溜まらない！！」



F「あ！先生、弁当会で使う敷  
物ない？」  
教「ブルーシートならあるよ」  
F「それ。それ。ブルーシート  
敷いたら水が溜まるかも」  
全「やったー！水が溜まった」

友達と一緒に協力し  
合いながら粘り強く  
穴掘りをしたり、知っ  
ている知識を言葉に  
して伝えたりしなが  
ら、目的実現のため  
にみんなで楽しんで  
いる【思考力の芽生え】  
【言葉による伝え合  
い】【協同性】

### 【考察】

- ・試行錯誤しながら楽しんでいる姿を保育教諭も一緒に「なんでかな？」と答えをだすのではなく、友  
達同士で考え合えるようなきっかけをつくることで、友達同士でアイデア出し合いながら遊びこむこ  
とにつながった。
- ・失敗をくり返ししながら、友達同士でアイデアを出し合うことで「もっとやりたい」という気持ちに  
つながり遊びの展開の広がりにつながった。

## 実践事例2「ひなを救出大作戦！！」（4歳児） 8下旬

### <園児の姿>

・オオゴマダラ飼育をきっかけに興味、関心が広がり、園庭のあらゆる場所を観察して楽しむ姿が見られるようになった。ある日、数名の園児がシークワサーの木の上にある鳥の巣を発見。クラスのみんなで鳥の巣の事について考えるようになった。

### <保育教諭の願い>

- ・身近な自然の豊かさを友達と一緒に肌で感じながら楽しんでほしい。
- ・身近な動植物への興味、関心を広げ、生命の不思議さや尊さを感じてほしい。

### <環境構成>

- ・子ども達同士で、知っていることや、意見や考えが伝え合えるような話しやすい雰囲気をつくっていく。
- ・子ども達のつぶやきや考えをクラスの友達と共有する機会をつくり、遊びの展開や友達の関係が深まっていくようにする。
- ・疑問に思った事や、知りたいと思ったときに調べる事ができるように、図鑑や絵本を用意する。

### <保育教諭の援助>

- ・子ども達の考えを大切にしながら、遊びが広がっていくように一緒に考えたり、一人一人の思いや気持ちを大切にしていく。
- ・保育の振り返りで共有しながら、遊びがさらに面白くなって、あそびの発展へのきっかけにつなげていく。



木の上に鳥の巣があるんだよ！！



盾と剣を作ってカラスから守る。

折り紙でとりを作ってわからなくしよう。

友達と一緒に意見や考えをだしあいながら、自分達の知識、経験を行動につなげようとしているクラスでカラスがよく飛び回っていることに気づき、共有する事で、「カラスからひなを守ろう」という共通の目的をもつことにつながった。【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】【協同性】

### ① ～みんなでカラスからひなを守ろう～

シークワサーの木に鳥の巣がある事知ったA君とB君。帰りのお集まりで他のお友だちに教える姿が。

A「シークワサーの木に鳥の巣があったよ」

教諭「あったね。でもこの前、ひながカラスに食べられそうになったの見たから心配だな」

C「カラスに食べないでって言ったらいいんじゃない？」

D「でもカラスと目が合ったら仕返しされるよ。」

教諭「じゃあみんな少し考えてみてね」

次の日みんなで木を実際に見に行き、みんなで作戦会議をすることに。話し合いをするうちにカラスからひなを守ろうということになり、いろいろなアイデアがでました。※エピソード②へ



次の日、「カラスからひなをまもろう」という共通の目的に向かってどうするか？を考え始めたこども達。いろいろな考えがでて次の行動につながりました。

②～みんなで材料探しにいこう～

A「巣を守る家をつくらう」

B「巣に石をつけたら、カラスがぶつかって痛いていって逃げるんじゃない」

C「鳥の巣って木と葉っぱでできていたからそれもくっつけよう」

教諭「じゃあどうしようか？」

D「散歩にいった木や葉っぱ、石を探しにいこう」

全員「いいねー。エイエイオー」

※その後散歩に行き、材料を集めカラスからひなを守るグッズが完成しました。



材料がいっぱい集まったね。どうやって巣を守る家つくる？



固い石もつけながら、木や葉っぱをつけたら守れるよ



やったー。ひなを守る道具が完成。

散歩で楽しみながら身近にある自然の豊かさを友達と一緒に感じている。普段は気づかない発見をする事で、自然への興味、関心が広がっている【思考力の芽生え】  
【言葉による伝え合い】  
【協同性】【自然との関わり・生命の尊重】

シークワサーの木にひなを守る道具のとりつけが始まりました。木には高さがあり、とりつけに友達同士で協力し合い楽しむ姿がみられました。

③～木が高すぎて届かない！みんなで力を合わせよう～

A「高い場所につけたいけど届かない」

B「フェンスに登ればいいじゃん。でもやりにくい」

C「俺の背中に乗って。あ！ダメだ！届かない」

D「いいこと考えた。イス取ってこよう。でも届かない」

E「みんなで部屋にある大きいテーブル取ってこよう」

F「やばい！カラスが飛んでいる」

G, H, I「大丈夫！みずかけてから退治しとくから」

全員「ヤッター！うまく取りつけることができたぞー」

高さのある木へのとりつけをどうすればいいかと、友達同士で試行錯誤しながら協力し合い、状況に応じた役割分担もしながら、命ある物を大切に、守ろうとしている【思考力の芽生え】  
【言葉による伝え合い】  
【協同性】【自然との関わり・生命の尊重】



俺の背中に乗って



イスを使えば届くかも



みんな重たくない？



みずかけろー



これでひなを守れるぞ



次の日、登園してきた子ども達が「ひなどうなったかな」「カラスに食べられてないかな」と心配していました。さっそく木を見に行くことに・・・作戦成功？作戦失敗？

④～子ども達の本当の気持ち～

A「しかけがこわれてるー！！」

B「作戦失敗だ！」

C「何で失敗なの？」

B「だって壊れてるのに」

A「壊れるってことはカラスがぶつかって壊れたんだよ」

B「じゃあ作戦成功だ」

A「でも、カラスがぶつかって壊れたってことはカラス怪我して血が出てるかも」

D「なんかかわいそう」

E「ひなは幸せになれたけど、カラスは幸せになれてない・・・カラスも幸せになってほしい」

教諭「そっかー。じゃあどうする？」

A「カラスにキズテープはってあげたい」

D「でもカラスにはるキズテープないさ」

A「・・・じゃあ作ろう」

E「カラスのベッドもつくろう」

F「薬もつくろう」

※カラスのためにキズテープ、ベッド、薬を作る事になりました。



傷テープこれぐらいの大きさかな？



葉っぱをいっぱい入れてふわふわベッドにしよう



薬は色がついてたほうが効くので花で色をつけました

みんなで考えた作戦成功喜び合いながらも、カラスにも命があるという事に気づき、みんなで考え合いながら命ある物を大切にしようとしている  
【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】【協同性】【自然との関わり・生命の尊重】

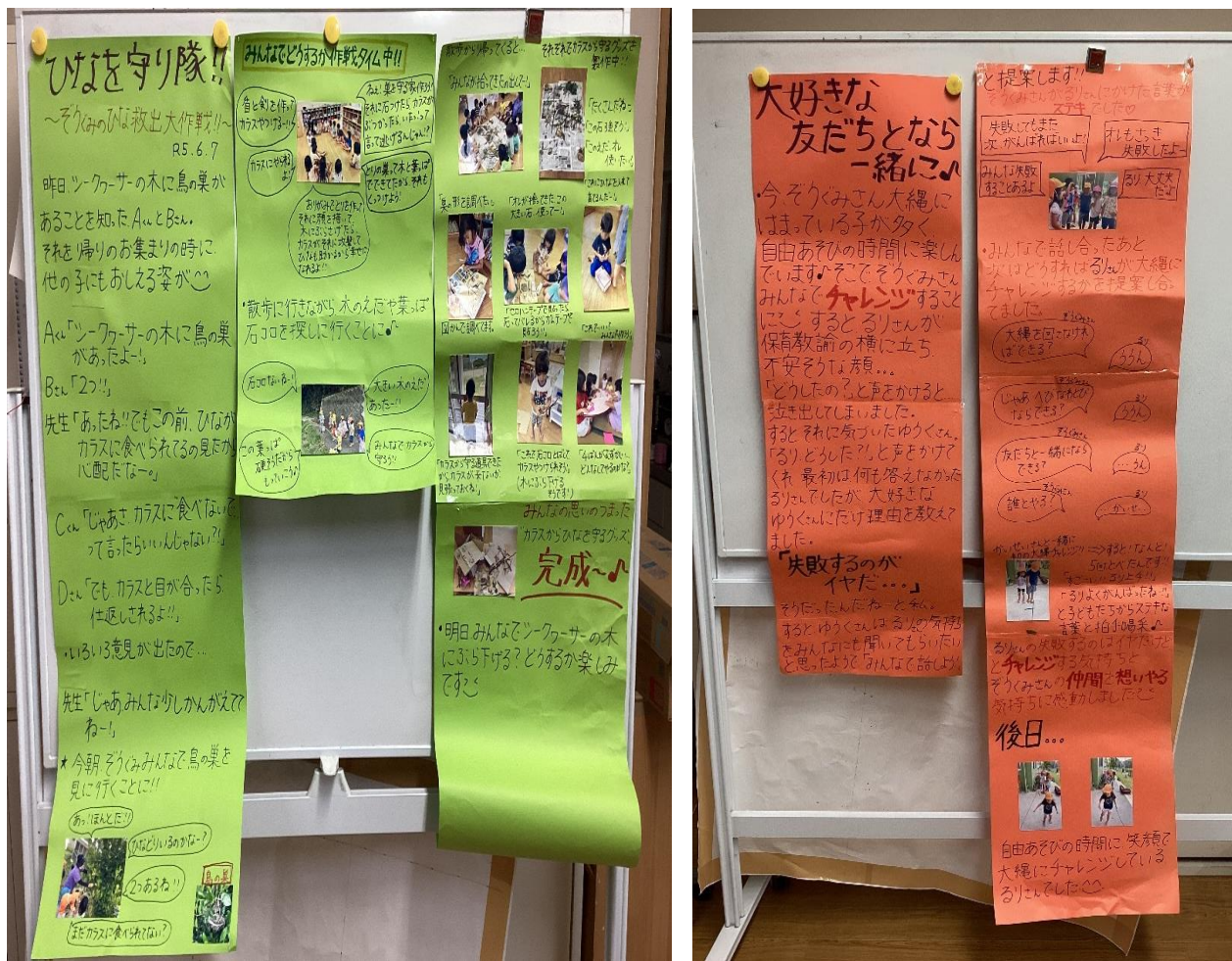
【考察】

・朝の集まりや振り返りの中で、自分で感じたことや考えたことを友達と伝え合うことで、遊びの展開が広がったり、いろんなことにも興味や関心につながっていった。

・共通の目的に向かいながら、試行錯誤したり、友達と協力し合いながら楽しむ事で相手の思いに気づいたり、新しいアイデアの共有したり、思いをお互いに出し合う経験につながった。

### 実践事例3 「ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上」

#### ☆エピソード型ドキュメンテーション



エピソード型ドキュメンテーションを見ながら語り合う。写真を見ながらひとつひとつの場面での子どもの言葉や保育者の関り、素敵だと思ったことを語りあったり、お互いのドキュメンテーションから学び合い、一緒に子どもの姿を共有しながら職員で話す姿はとても楽しそうであった。

#### 【考察】

- ・子どもの姿がよく見え、職員、保護者と一緒に語り合えるドキュメンテーションとは?と試行錯誤しながら、一番伝わりやすい、エピソード型ドキュメンテーションにつながった。
- ・子どもたちが興味、関心を持っていることや感じていたこと、子どもにとってこの環境や保育者の関わりがどのような意味をもっていたのかを語り合うことにつながった。

## Ⅶ まとめ

・子ども達の言葉を大切にしながら、それぞれの思いを認め繋げていった事で「もっとやりたい」の気持ちになり、主体的で豊かな遊びに繋げることができた。

・ひとりの発見が友達の中で広がり、共に喜び合ったり、驚き合ったり楽しむ仲間がいることで、子ども達はさらに環境に働きかけるようになり、探究心が深まっていると感じた。

・園内公開保育は、短い時間でもできるだけ全職員が保育を意識してみることで、観察した時間帯の前後で、その場所でその子が何の遊びに夢中になっていたかの話についてつなげることができた。

「なぜこの遊びをしていたのだろうか？」と思っていたことが、その前後で観察していた保育者から話を聞くことで、きっかけの背景がわかったり、その後の流れに気づいたり、保育の流れや担任の新たな気づきにつながった。

・子どもの姿について共通のイメージを話することができると共に、いろいろな気づき、驚きや納得といった感情が生まれ、保育者同士の共感的な関係につながっていると感じた。（園内公開保育）

・子どもの姿がよく見え、職員、保護者と一緒に語り合えるドキュメンテーションとは？と試行錯誤しながら、一番伝わりやすい、エピソード型ドキュメンテーションにつながった。

・子どもたちが興味、関心を持っていることや感じていたこと、子どもにとってこの環境や保育者の関わりがどのような意味をもっていたのかを語り合うことにつながった。（ドキュメンテーション）